

# 子どもの生活習慣病

## 予防検診について



### 問

近年、子どもを取り巻く環境は、生活の乱れや動物性の脂肪の多い欧米型の食事、遊びの変化や運動不足など、健康的とはいえない状況が生まれ、肥満や高脂血症、糖尿病、高血圧などの発症が10代から増加している。子どもの生活習慣病対策として、学校等でさまざまな取り組みが進められ、学校の検診に血液検査を取り入れている自治体も増えている。

科学的なデータに基づいて指導されることは、子どもが健康に関心を持ち、将来の生活習慣病の予防にも大きな役割を果たすことになる。従って、次の点について伺う。

①子どもの生活習慣病の予防対策の現状について。

②学校検診の中に、血液検査を取り入れていくこと。

### 町長

①生活習慣病は一般的には肥満に起因し、肥満は特殊な場合を除き食事や生活環境によって引き起こされることから、食を中心とした取り組みを主にしている。

離乳食講習会や乳幼児栄養相談、よちよちサロン、各保育所、広報紙などを通してバランスの取れた食品選び、食事リズムの確立、おやつの適切な与え方などの知識の普及を図っている。小学生とその親を対象とした学齡期親子教室に加えて、昨年からは幼児とその親を対象とした親子料理教室を開き、望ましい食生活習慣の意識づけに努めている。

乳幼児期の肥満、瘦身の早期発見について、3歳児健診で一定以上の指数を有する場合は、医師の指示に基づき個別に栄養相談を実施し、継続的に指導等を行い、今後も引き続き早期発見、早期予防に努めていきたい。

### 教育長

②学校の健康診断は、学校保健安全法の規定に基づき実施をし、原則として学校保健安全法施行規則に定めた項目について実施をするものであるため、現在、血液検査はその項目に指定されていない。

### 問

世界一高い日本の教育費は、経済危機の下で加速する貧困と格差が広がりが所得の低い世帯の負担は重く深刻である。

家庭の経済力に関わらず、子ども・青年の学ぶ権利が十分な財政的支援で支えられ、未来に備える力が育まれることが必要である。幕別の就学援助受給児童生徒の増加からみても、保護者の経済状況が悪化し教育費の負担増は明らかである。経済的に困難な状況にある子どもたちを、学びの

## 奨学金制度の拡充について

今後、血液検査を取入れていくことについては、保健課とも十分協議していきたいと思うが、教育委員会としては今後とも、給食や体験学習などを通じて、食生活と自ら健康を管理することの大切さを伝える食育の推進や、自己の生活を振り返る生活指導、保健指導など、生活習慣の改善に必ずする教育機会の充実に努めていきたい。

場から遠ざけることのないよう手立てを講じる必要がある。

従って、次の点について伺う。

①奨学金制度の周知の手立てを講じること。

②支給基準を明確にすること。

③奨学金支給額の引き上げを。

**教育長** ①本年度の奨学生募集については、町内中学校長に対し、3年生全員に奨学金制度概要の案内文書の配布と制度の周知

を依頼し、幕別高等学校と江陵高等学校にも同様の依頼を行いました。

また、町の広報まくべつ2月号においても、奨学生の募集についてご案内をしているほか、前年度の対象者で高校へ在学している方へは申請書を個別に送付するなど、制度の周知に努めているところである。

②現行条例において、奨学金の支給は予算の範囲以内で行うことと、月額7000円以内と定めており、選考委員会に諮ったうえで対象者を決定しているが、特別な事情など考慮し生保対比基準を上回っても認定する場合がありますから、経済状況の基準などをあらかじめ明示し、募集することとは困難である。

③奨学金の給付は、予算の範囲内となっており、受給者が増えていることにより、全ての希望にそえない状況である。今後、財源問題と、事業が継続的に続けていくような、良い制度になるようにさらに検討を続けていきたい。